

全日制普通高级中学（试验修订本·必修）

日语第三册

教师教学用书

人民教育出版社 课程教材研究所 外语室日语组 编著

全日制普通高级中学教科书（试验修订本·必修）

日语

第三册

人民教育出版社 课程教材研究所 外语室日语组 编著



人民教育出版社

全日制普通高级中学（试验修订本·必修）

日语第三册

教师教学用书

人民教育出版社 课程教材研究所
外语室日语组 编著

人民教育出版社

全日制普通高级中学（试验修订本·必修）

日语第三册

教师教学用书

人民教育出版社 课程教材研究所

外语室日语组 编著

*

人民教育出版社出版发行

（北京沙滩后街 55 号 邮编:100009）

网址: <http://www.pep.com.cn>

北京市联华印刷厂印装 全国新华书店经销

*

开本: 787 毫米×1 092 毫米 1/16 印张: 11.25 字数: 245 000

1998 年 12 月第 1 版 2002 年 6 月第 3 次印刷

印数: 3 601~4 600

ISBN 7-107-12875-2 定价: 8.20 元
G·5985 (课)

如发现印、装质量问题, 影响阅读, 请与出版社联系调换。

（联系地址: 北京市方庄小区芳城园三区 13 号楼 邮编: 100078）

说 明

经国家教委批准，课程教材研究所接受日本国际交流基金的资助，并在日本国际文化交流中心的大力协助下，组织中日双方编委会合作编写全日制普通高级中学日语教材。

参加高中日语第三册教科书编写的中日双方人员如下：

中方编委会成员：

委 员 长	魏国栋	课程教材研究所	所 长
主任编委	唐 磊	课程教材研究所外语室副主任	副 教 授
编 委	赵华敏	北京大学东方学系日语教研室主任	副 教 授
编 委	翟东娜	北京师范大学外语系日语教研室副主任	副 教 授
编 委	林 洪	北京师范大学外语系日语教研室	副 教 授
编 委	张国强	课程教材研究所外语室日语组	副 教 授
编 委	张 敏	课程教材研究所外语室日语组	讲 师

日方编委会成员：

委 员 长	水谷 修	国立国语研究所	名誉所员
		名古屋外国语大学	教 授
顾 问	玉村 文郎	同志社大学文学部	教 授
顾 问	佐治 圭三	京都外国语大学外国学部	教 授
顾 问	山田 泉	大阪大学留学生中心	教 授
主任编委	加纳 陆人	文教大学文学部	副 教 授
编 委	藤井 真三	日中学院日语科	主任讲师
编 委	青木 惣一	美国·加拿大大学联合日本研究中心	副 教 授
编辑助理	横山 朝子	日中学院日语科	专职讲师

日方事務局：国际文化交流中心

教师教学用书是根据教科书的内容、结构编写的配套教学用书。编写工作由中方独立完成。日方编委会对教师教学用书的编写提出过宝贵意见和建议，特此鸣谢。

本册供高中三年级全学年使用。

在编写过程中，中方编委会对全书的内容、结构和体例等进行了多次研究、讨论，并对初稿提出修改意见。具体执笔由林洪承担，附录中的参考译文由张敏执笔。

前 言

本书是高中日语教科书第3册的教学参考书。

面对各种各样的教学法，面对不同的教学部门和教学对象，要编出具有相当普遍性的“指导方案”十分困难。故本书以“教学参考资料”的形式编写而成，力图尽可能多地提供一些教学中所需的解释、例句等。至于参考资料的具体运用，还要靠每位老师根据教学中的具体情况灵活处理。

教师教学用书围绕教科书的布局，每课大致由4部分构成：

- 一、教学重点
- 二、课文解说参考资料
- 三、会话解说参考资料
- 四、练习参考资料

另外，部分课次配有背景资料。书后配有附录，包括部分练习参考答案及语法练习，实力测试的参考答案和课文、会话参考译文。

一、关于教学重点与其他语法解说项目关系

教学重点是教科书根据教学大纲的要求，对教师的教学要点所做的提示。一般每课包括两个方面：

1. 主要语法项目。教科书的课文解说及教师教学用书均将非单元小结课次的教学重点排在第1项。3课、6课、9课、12课(单元小结)按课文中出现的先后顺序排列。
2. 主要日常交际用语项目。教科书的会话解说及教师教学用书，均按会话文中出现的先后顺序排列。

教师教学用书重现上述“教学重点”的两个项目是为了便于教师把握。教师对教学重点的处理，可根据具体情况具体安排。宜精则精，宜简则简。

本册书的教学重点与前两册有所不同，可操练性比较小。比如第1单元的敬语、第1单元的“だ体”“である体”，从语法系统上来讲十分重要，但由于受到其使用背景的限制，操练性不强。第4课的副助词“ばかり”属书面语，练习本身虽不困难，但可操练性也不强。第7课的形式名词“わけ”，同样不是一个灵活运用性较强的项目，可作一般性的讲解和练习，让学生了解其表示“申述原委”的基本含义即可。当然，也有可操作性比较强的重点项目。如第8课的“はず”，可以精讲多练，因为可供操练的词汇、场景设计等均比较丰富，同时还可以和第7课的“わけ”相比较。

相对而言，有些句型倒是比较实用，也比较好练。比如第1课的“～について”、第2课的“～ていい”、第3课的“お+动词连用形+する”“～てはじめて”、第4课的“あまりの+名词+に”等。

二、关于“课文解说参考资料”

教科书中的解说因受篇幅的限制不易展开，例句也有限。有鉴于此，教师教学用书设立了“课文解说参考资料”，包括“词汇”和“语法”两个部分。文字解释与例句提示并举，一般每项解释附有3—5个例句，并提示与所学相关内容的联系。

1. “词汇”部分

教科书第3册的“课文解说”共76项(不包括“常用搭配”)。其中68项是对句式、表达方式、语法的解释，而对词、词组的举例说明只有8项。为方便教师讲解，教师教学用书中的“词汇”部分主要对名词、形容词、动词、副词以及词组加以解释，共计122项。

根据实际教学中经常遇到的问题，还用“注意”和“比较”的形式对下列几种情况作了说明：

(1) 中日近义词。如“発表”与“发表”、“緊張”与“紧张”、“貿易”与“贸易”、“兄弟”与“兄弟”等。还在第10课讲解“場所”一词时，简要介绍了汉语中的日语词汇。

(2) 日语近义词。如“伺う”与“聞く”“尋ねる”、“ものすごい”与“こわい”、“人々”与“人たち”、“たちまち”与“すぐ”等。

(3) 自动词与他动词。如“起こす”与“起きる”“起きている”、“気にする”与“気になる”等。

(4) 对某些多义词作了小结。如第8课的“上る”与“昇る”“登る”等。

(5) 对某些中国人容易混淆的词的用法作了提示。如汉语中的“放”，译为日语时可根据上下文处理为“飾る”“置く”“乗せる”“並べる”，在第2课作了解释。

在解释词汇时，除去词性、基本词义以外，尽可能地说明其内涵所在及使用条件。如第2课中的副词“ふと”是这样解释的：

副词。意为“无意之间”“偶然”。主要用来描述无意识的行为或瞬间的心理活动。

- ・ 読んでいた新聞からふと目を上げると、丁恵さんはもう教室に入っていました。
- ・ 歩きながらふと見上げると、空に虹がかかっていました。
- ・ 卒業写真を見ていたら、ふと友達に会いたくなりました。

.....

个别不易用文字说明的，书中尽可能多地提供例句，以便教师通过例句加以理解，进而更好地向学生阐释。

由于本书是以教师为使用对象，例句是否完全适合课堂教学、以何种方式用于课堂教学，希望教师们在使用中加以斟酌。

2. “语法”部分

语法部分是对助词、助动词、句型、表达方式以及课文中不太容易理解或是需要引起注意的句子、内容等加以补充说明。有的是对教科书的解说加以补充、有的是补充教科书的解说中未收录的项目，共计85项。

补充的内容有以下几点。

- (1) 增加对内涵和语感的解释。如第3课的“～てはじめて”。

(2) 增加句式、表达方式的立项。有些是一般语法书、句型书、辞典上极少列入的项目。比如：第1课的“动词+たくなる”、第6课的“いったいなぜ(どうして)～(の)だろう(か)。それは～からだ”等。这些都是从教学实际和交际需要出发列入的。

(3) 注意讲解汉语与日语在表达习惯上的不同。如第1课中的“～たくなる”。

(4) 注意提示相似表达方式的区别。如第2课中的“～てもいい”与“～ていい”的区别。

(5) 注意与以前内容的呼应。

(6) 收录课文中结构较为复杂、难懂或需一定背景知识的句子加以解释。如第3课中的“～ということ”。

(7) 适当予以小结。如第1课的“れる”“られる”。

3. 背景知识

本册教师教学用书在这一部分上增加了不少篇幅,对课文相关的内容及个别名词作了一定的介绍。共计12项。如第1课的“鉴真”“受戒”“传戒”“佛像”“唐招提寺”,第4课的“敦煌”“莫高窟”“世界遗产”,第9课的“香港回归前大事记”等。

三、关于“会话解说参考资料”

这一部分对教科书中会话解说内容作了进一步的阐释和举例,共63页。其中包括对教科书会话解说内容的补充,也收录了教科书会话解说未收录的词句、表达方式等。

“会话解说参考资料”注意了下述几个方面:

1. 进一步说明使用条件。如第1课中听到对方感谢时的应答“いいえ”“どういたしまして”。

2. 补充教科书会话解说中未收录的词汇、语法项目、表达习惯等。如第2课中的两个助词“は”“が”的用法。

3. 说明汉语与日语的在表达习惯上的异同。如第3课中的“これ、つまらないものですが”。

4. 说明翻译、理解上的注意事项。如第4课中的“はい、分かりました”。

5. 对某些词句加以比较。如第5课中“申しわけない”与“すみません”“申しわけありませんが”的区别。

6. 对某些表达方式加以小结。如通过第5课中“らしい”的小结叙述非第一手信息时的表达方式。

7. 介绍日常会话中常用的省略表达形式。如第7课中的“学校の医務室へ行ったんですが、治らなくて……”“授業がありますが……”。

8. 例句中的小型会话比前两册有所增加。

会话教学是外语教学的组成部分。设置日常交际会话的目的是为了提高学生用学过的语言知识进行日常交际的能力。使用过前两册教科书之后,似乎仍然有教师认为会话文没有什么好教的。我们再通过一个例子来重申教科书的初衷。

不少初、高中日语课开始的时候,班长都会要求全体同学起立向老师行礼,同时口中仍然

念道“先生、おはようございます”。关于类似的问题《教师教学用书》第1册、第2册的前言中均提示过这种说法的错误所在。然而问题并没有一下子得到解决。这说明要练好会话同样需要日积月累。

上述语法上没有错误而实际交际上有问题的实例说明日常生活的交际有其特殊性。同样一个词、一个表达方式，在不同的交际环境中会有不同的交际功能。注意到了语言的这种交际性，便可使我们的语言教学“活”一些，更有益于实际应用。对于用外语交际的人来说，仅仅有语言材料，知道怎么说还远远不够。因为要想使交际得体，还必须懂得相关的风俗习惯、语言习惯和语言内涵等。“会话解说参考资料”正是基于这些考虑而编写的。

当然，用外语交际，没有一定的语言基础则难以有效地开展。正是基于这一考虑，日常生活交际用语设计得相对独立一些、简单一些。然而，如果因为看上去简单就不重视这些交际功能的理解与运用，“先生、おはようございます”一类的交际错误仍然还会发生。

四、关于“练习参考资料”

“练习参考资料”主要是提问示例。这是为教师讲授课文而设置的。与第2册相同，提问示例仍分两部分。第一部分是与课文内容相关的某些话题。教师可用作进入课文的前导，亦可用作课文学完之后的自由问答练习。第二部分是就课文本身的提问。这些提问既可以用于进入课文之前检查学生预习的情况，也可作为课文讲解过程中检查学生理解与否的依据，还可以用于讲解之后就课文内容做对话练习。回答“なぜ”“どうして”的同时，要注意培养学生使用“～からです”等表示原因的表达方式来回答的习惯。

五、关于“附录”

《教师教学用书》的附录部分收录了部分练习参考答案和课文、会话参考译文，以及本册教科书新增设的语法练习与实力测试的参考答案。练习中的书面替换练习、汉字及读音的练习等没有提供答案。提供答案的主要内容有：

1. 课文练习

- (1) 听磁带做替换练习的文字材料
- (2) 助词填空
- (3) 完成句子
- (4) 回答问题
- (5) 写作练习
- (6) 翻译练习

有些“助词填空”的答案不是唯一的，这种情况下会给出两种答案。“完成句子”“翻译练习”的答案仅供参考，学生的答案可能会是各种各样的，需要教师灵活处理。另外，翻译练习的参考答案对敬、简体未作严格要求。因此，学生用何种文体翻译可不作统一规定，但一句话中的文体应该统一。

2. 会话练习

- (1) 完成会话

(2) “角色扮演练习”的示范对话

示范对话也只是供教师组织练习时参考，不是唯一答案。

课文和会话的参考译文，尽量按照原文的语序译出，当按原文语序译出严重影响汉语的表达习惯时，则不拘泥于原文。翻译的方法同样不是唯一的，因此只要不损害原意、不影响汉语的表达习惯，教师还可以引导学生找出更好的译法。

3. 语法练习与实力测试

这是本册教科书新增内容。初中阶段结束时已经对所学的语法知识做了小结（见初中第3册）。内容主要包括四种基本句式和词类知识，并着重对有活用的词作了较为详细的整理。为了使学生在学完高中三年日语之后，能够比较宏观地了解日语的特点，本册教科书特意安排了语法小结。根据高中阶段教学大纲的要求，应将教学重点放在提高实际运用日语的能力上，语法知识的学习与总结也应从实际表达应用出发。因此，这次的语法小结没有完全按照原有的模式重新加以归纳，而是在初中阶段词类学习的基础上，进一步使学生了解由单词组成句子，再将句子说出口或写成书面文字的各个环节，并将高中所学的语法内容放到日语句子结构的整体框架内加以分类、定位分析，试图使学生从立体的、运用的角度来理解和把握日语语法，从而提高把握日语、运用日语的能力。

比如，这次语法小结将四类助词放入句子结构加以分析，明确指出格助词的作用是搭构句子的基本构件，副助词是在基本构件的基础上提示或强调限定某一成分，或增加某种特殊意义。副助词“は”可以替代“が”“を”等格助词或以“には”“とは”“からは”等与格助词叠加的形式来提示这些基本框架成分。接续助词顾名思义用于连接两个以上的内容。这些内容之间可以是单纯并列，亦可是表示因果、条件等逻辑关系。而终助词的作用主要是附在句尾表示某种语气。

句子的中心在谓语部分。谓语主要表示叙述、描写、判断。选择叙述的角度，说明过程与时间，以何种语气叙述是必不可少的环节。再加上语体的选择与敬语这些环节或多或少与助动词、补助动词等有关。

这次语法小结中的八个环节，可以说是日语语法的核心。零零散散的语法知识，基本上可以在某个环节上加以定位。任课教师还可根据各自的具体情况加以充实、补充。

针对这八个环节教科书分别编排了语法练习，本册教师教学用书的附录中配有参考答案。

依据初高中教学大纲所规定的学习内容，高中日语第3册教科书中编写了两套实力测试题，其目的是让学生对自身的日语基本能力和所学基础知识进行自测，使期末总复习更有实效。“实力测试”为教师提供了编写试题的样例，也有利于教师在学生自测后“对症下药”，有的放矢地加以指导。本书所附答案仅供参考。

以上就本册教师教学用书所提供的“参考资料”做了一些说明，希望有助于老师们的教学，更期待老师们给予指正。

目 录

第一单元

第 1 课	(1)
第 2 课	(13)
第 3 课	(21)

第二单元

第 4 课	(31)
第 5 课	(43)
第 6 课	(51)

第三单元

第 7 课	(59)
第 8 课	(67)
第 9 课	(75)

第四单元

第 10 课	(83)
第 11 课	(92)
第 12 课	(100)

附录

部分练习参考答案	(106)
语法练习参考答案	(143)
实力测试参考答案	(148)
课文·会话参考译文	(153)

第 1 课

教学重点

1. 敬语助动词“れる”“られる”。
2. 感谢与应答。

课文解说参考资料

一、词汇

1. 伺う

五段他动词。动词“聞く”“尋ねる”“訪ねる”的自谦词。

- ・西安の歴史について歴史の先生から伺いました。（聞く）
- ・今日はいろいろ先生の学生時代のお話を伺いました。（聞く）
- ・音楽家にどのようにして音楽家になったかを伺いました。（聞く・尋ねる）
- ・どの大学に入ったらいいか、担任の先生のご意見を伺いました（聞く・尋ねる）
- ・来週の月曜日に先生の研究室に伺ってもよろしいでしょうか。（訪ねる）
- ・ゆうべ、王先生のお宅に伺って、昔の北京の写真をたくさん見せていただきました。（訪ねる）

比较：在表示“询问”一意时，“聞く”的语气比较随便，而“尋ねる”比较客气正式，“伺う”的语气最客气。

- ・友達にどうして来なかったかを聞きました。
- ・日本人の留学生に「水谷先生の研究室はどこにありますか」と尋ねられました。
- ・もう一つ伺いたいことがあります、先生は中国人の高校生のことについてどう思われていますか。

2. 招く

五段他动词。在本课意为“聘请（某人高就某一职位或工作）”。

- ・工場は日本の技術者を招きました。
- ・彼女のために、有名な医者がわざわざ北京から招かれました。
- ・環境問題の専門家を講師として招き、ゴミ問題について話を聞きました。

比较：“招く”的另一意为“邀请（某人到某处参加会议、活动等）”。

- ・今度の誕生パーティーに中学校でお世話になった先生もお招きしたいです。
- ・周明さんのお母さんはわたしたちを夕食に招いてくださいました。
- ・兄は学術会議に招かれて上海に行きました。

- ・彼は招かれないのにパーティーに来ました。

五段他动词“誘う”也可译为“邀请”，但其含义为“建议某人与自己一同做某事，所以与“招く”有所不同。

- ・サッカーの試合を見に行こうと周明くんを誘いました。
- ・彼はもうかなりよくなりましたから、散歩に誘ってもいいでしょう。
- ・冬休みには、友達からスキーに誘われています。

五段他动词“呼ぶ”在表示“邀请”时最为口语化、随意，有时带有一定的强制性。

- ・三上さんを夕食に呼びましょうか。
- ・日本人の留学生を呼んで、バスケットボールの試合をやりましょう。
- ・先生は悪いことをした生徒を職員室に呼びました。

3. 頼む

五段他动词。意为请求、委托等。

- ・友達に引越しの手伝いを頼みました。
- ・頼むから、静かにしてくれ！（“静かにしてくれ”的敬体形式是“静かにしてください”）
- ・周くん、ちょっと頼みたいことがあるのだが……。
- ・友達に頼まれて、資料室の整理をしています。
- ・三上さんへの手紙を周明くん頼みましょう。
- ・人に頼んで、この小説を丁恵さんに届けてもらいました。
- ・友達に頼んで、買い物をしてもらいたいのですが……。
- ・病院へ行くのに、タクシーを頼みました。

比较：“願う”意为希望、企盼、祝愿等，这是“頼む”所不包含的意思。“願う”也有表示请求的意思，但比“頼む”恳切，因此语气也比较委婉。相反，用“頼む”语气则相对随便一些。

- ・世界平和を願う人々が公園に集まりました。（頼む ×）
- ・周明さんの成功を心から願っています。（頼む ×）
- ・彼は医者になりたいと願っています。（頼む ×）
- ・子供の幸せを願わない親はいません。（頼む ×）
- ・あのう、ちょっと先生にお願いしたいことがあります。（頼む ×）
- ・希望の大学に合格できるように願っています。（頼む ×）
- ・あ、もしもし、丁恵ですけど、ちょっと周明さんをお願いしたいのですが。（頼む ×）
- ・あ、周明さんですか。今大丈夫ですが。実はちょっとお願いしたいことがあるのですが……。 （頼む ○）

4. 引き受ける

五段他动词。意为承诺做某事。相当于汉语的“接受”“承担”“担任”等。

- ・わたしは日本の高校生の訪中団ほうちゅうだんの通訳を引き受けました。
- ・わたしは仏像について調べることを引き受けました。
- ・周明さんは歓迎パーティーの司会を引き受けました。

5. 許す

五段他动词。在本课意为“允许”。

- ・彼は高校を卒業しないで、日本へ留学しようとしたが、両親は許しませんでした。
- ・両親はわたしが1人で旅行するのをなかなか許してくれませんでした。
- ・客：あのう、この庭園に入ってもいいですか。

管理人：はい。この庭園は一般の入場を許しています。どうぞ、ご自由にお入りください。

6. 広める

五段他动词。意为推广、传播。

- ・地球にやさしい（善待地球）という声を世界中に広める必要があります。
- ・地球はただ一つという考えを広める運動が今行なわれています。
- ・おもしろいことなら、広めようと思わなくても、若者に広まります。
- ・大学を卒業したら、田舎に戻って、子供たちに知識を広めたいと考えています。

7. 何より

副词。意为“比什么都（好、重要等）”。

- ・そのことが何よりうれしいです。
- ・わたしは天安門広場を散歩するのが何より好きです。
- ・彼は音楽を何より愛しています。

“何より”可以通过“の”修饰名词，还可以直接与“です”连接结束句子。

- ・これは何よりの品しなです。（＝これは何よりほしいと思っていたものです）
- ・それが何よりの証拠しやうこです。
- ・健康が何よりです。（＝健康が何より大切です）

A: 最近家族みんなが病気もせずに元気に暮らしています。

B: そうですか。それは何よりですね（一番いいことですね）。

“何より”接副助词“も”，表示最高的程度。

- ・学生にとっては冬休みや夏休みが何よりもうれしいです。
- ・病気になった人には何よりも静かに休むことが第一ですね。

8. 中でも

副词。特别就整体中的某一具有特殊性的部分而言。相当于汉语的“其中特别是……”。多用于比较正式の場合。轻松的日常会话中不大使用。

- ・周さんの男のクラスメートはみんな背が高いです。中でも林さんはバスケット部の部員で、189cmもあるのです。
- ・そうですね。中国での旅はいろいろびっくりしたことがあります。中でも一番不思議に思ったのがトイレにドアがないところもあることでした。
- ・丁恵さんはよくできていますよ。中でも数学と日本語が得意です。

比较：“とくに”也有表示与其他相比尤为突出的意思，更口语化一些。

- ・三上さんは、科目の中では、英語と歴史がとくに優秀です。（中でも ×）

9. ものすごい

形容词。在本课用来形容非常可怕的情形。意为“极为可怕的”“非常恐怖的”等。多用于修饰名词。

- ・地震が起こって、家やビルがつぶれ、ものすごい様子でした。（こわい ×）
- ・虫眼鏡をとった男の子はものすごい顔をわたしの方へ向けました。（こわい ×）
- ・あの男はものすごい目で少年を見ていました。（こわい ○）

比较：“怖い”表示的恐怖、可怕，比较客观、一般性，使用范围比较广。故多用于带有普遍性的事物上。而“ものすごい”主要用于描写主观上的感受，程度也远远高于“怖い”，感情色彩也大于“こわい”。

- ・ゴミがこんなにたまっていて、怖い。（ものすごい ×）
- ・あそこはよく事故が起こるから、怖いです。（ものすごい ×）
- ・山に登るのもいいですが、失敗するのが怖いです。（ものすごい ×）
- ・子供は怖いものは知らないのですね。（ものすごい ×）
- ・昨日、怖い夢を見ました。（指昨天做了一个恶梦。）
- ・昨日、ものすごい夢を見ました。

（指昨天做了一个不得了的梦，可能是非常好的美梦，也可能是十分可怕的恶梦。）

注意：“怖い”在修饰人的时候，则不是“可怕”的意思。如“怖い顔”意为“生气的面孔”，“怖い先生”意为“严厉的老师”。

10. 流す

五段他动词。在本课表示“把……冲走”的意思。

- ・大雨で家を流しました。
- ・木材を川に流して運ぶというのは実に環境にいい方法です。
- ・お皿などを洗う時、油などがついたまま流してしまえば、水の汚れの原因の

一つです。

11. 目を悪くする

词组。意为由于某种原因把眼睛弄坏。形式上虽然是他动词，但并不表示有意弄坏眼睛，而是强调受到伤害的意思。这是日语部分他动词的特点之一。

- ・電車の中で本を読んでばかりいると、目を悪くしてしまいますよ。
- ・本の字が小さすぎるせいか、目を悪くしました。
- ・毎日テレビばかり見ていたので、目を悪くしました。

比较：“目が悪くなる”为自动词性词组。从客观角度说明视力下降。

- ・年をとったせいか、目が悪くなったとおばあさんが言いました。（目を悪くする×）
- ・弟がゲームばかりしたので、目が悪くなりました。（目を悪くする○）
- ・中3まで目がとてもよかったが、高校に入ってから急に悪くなって、めがねをかけないとはっきり見えなくなりました。（目を悪くする×）

12. 発表

名词兼サ变他动词。表示通过媒介、学术研讨会等介绍自己的想法、调查的结果、事态的发展等。值得注意的是，日语的“発表”与汉语的“发表”不完全对应，需具体情况具体处理。

- ・周明さんの発表は、時間の都合で明日になります。
- ・成績の発表は7月2日です。（公布成绩是在7月2号。）
- ・東京の新聞がその事件の記事を発表しました。
- ・明日の授業で、今度調べてきた鑑真のことについて、発表します。
（明天上课时，我要谈一谈这次了解到的有关鉴真的情况。）
- ・兄は来月国際会議で発表します。（我哥哥将在下个月的国际会议上宣读论文。）

二、语法

1. 敬语助动词“れる／られる”

敬语助动词“れる／られる”接在叙述某人动作行为的动词后，表示对动作执行者的尊敬。是尊敬语的表达方式之一。在若干尊敬语中属程度较轻的一种。近年来，使用频率在逐渐增高。

接续方法与被动、可能助动词“れる”“られる”相同。

注意：与动词、补助动词“いる”相对应的是“おられる”，与“する”相对应的是“される”。

使用敬语时，句尾一般用“ます”“です”结束句子。

- ・先生はいつもどんな新聞を読まれますか。

- ・この問題についてどう思われますか。
- ・小川さんのご両親は京都におられるそうです。
- ・三上さん、ご両親は休みの日にどうされますか。
- ・お父さんはどんなお仕事をしておられますか。

比较：助动词“れる”“られる”可以用来表示被动、可能、尊敬三种意义。区别这三种意义，需要找到各自的特点。

表示被动时，主语一般可为人或事、物。而表示尊敬时，主语只能是人。所以，当主语为事、物时，不可能为表示尊敬的意义。

表示被动时，多为消极意义的词句。

表示被动时，往往动作执行者的后面加助词“に”，而表示尊敬时则无须该助词。

- ・先生は日曜日にどこかへ行かれましたか。（尊敬）
- ・先生は息子さんに外国へ行かれて（被动），寂しそうな顔をされています。（尊敬）

表示可能时，由于五段动词与“れる”结合形成特殊的可能动词形态，故五段动词若接“れる”则不为可能态。只有一段动词与“られる”结合表示可能。

“する”的可能态为“できる”。

- ・あした行ける人は行ってください。（一般不用“行かれる”而用“行ける”）
- ・刺し身が食べられない人はいませんか。

2. 奈良の仏像について調べる宿題がある

“～について”为惯用表达方式。表示就某一问题思考、调查、报告等意。所以“～について”之后多接“考える”“言う”“答える”“研究する”等动词。

- ・今、李さんは何について研究していますか。
- ・この教科書は文法について分かりやすく書かれているので、役立ちます。
- ・彼のことにについて何も知りません。
- ・この日本文化史についての論文はたいへんよくできているそうです。
- ・昨日の作文は「高校生の制服について」という題でした。

以上各例不可用“～に対して”替换。

比较：“～に対して”表示针对某一对象作出某种反应。所以“～に対して”之后多接表示动作、状态、态度等词句。

- ・目上の人に対して、「おはよう」だけを使っはよくないです。
- ・水谷先生はどの学生に対しても親切です。

以上各例不可用“～について”替换。

有时，“～について”“～に対して”均可使用，但侧重点有所不同。

- ・では、みなさんのご質問に対して、お答えします。（侧重点在“回答”上）
- ・では、みなさんのご質問について、お答えします。（侧重点在“就提问”上）

“～にとって”表示针对某人、某组织、某物体作出某种评判。

- ・これはわたしにとって難しい問題です。
 - ・周明さんにとっても、三上さんにとっても、お互いに会えないことはつらいことです。
 - ・上海への観光客にとって、「外灘」の夜の景色を見るのは楽しいことです。
- 以上各例不可用 “～について” “～に対して” 替换。

3. なぜだろうと思い、調べてみたくなったんです

“疑问词＋（用言）＋だろう（か）と思い，＋动词”为惯用表达方式。表示对事物产生质疑，并为消除这种质疑而采取某种行动。

- ・周明さんが言った場所はどこだろうと思い，地図を調べました。
- ・いったい何だろうと思い，近づいてみたら，小猫が穴に落ちていたのです。
- ・今日の午後声をかけてくれた人はだれだろうと思い，丁恵さんに電話してみた。
- ・どうして間違えたのだろう（か）と思い，先生に伺いました。
- ・鑑真はいつ日本へ行ったのだろう（か）と思い，百科事典を調べました。

4. なぜだろうと思い調べてみたくなったんです

“动词＋たくなる”为惯用表达方式。用来表示由于某种原因使自己想起要做某事。这种语感的把握需要教师不断提示学生。

- ・パンが出たら，コーヒーを飲みたくなりますね。
- ・周明さんからハルビンの話を聞いて，わたしも行きたくなりました。
- ・わたしも周明さんからハルビンの話を聞いたら，きっと行きたくなるでしょうね。
- ・この曲を聞くと，どうも踊りたくなります。
- ・妹が買ってきたおもちゃのパンダがかわいくて，触ってみたいです。

5. 6度目にやっと日本に着かれた

在本课，格助词“に”接在数量词后表示对次数的限定。意为经过若干次才完成某项任务或达到某种水平。

- ・いくら電話をしても話し中だったが，5回目にやっと通じました。
- ・10年目にとうとう辞書が完成しました。
- ・中国を訪れた回数は，二十数回に及びました。（达到）
- ・仕合いは7度目にやっと勝ちました。